

令和3年度

仙台市学校図書館運営761校  
取組事例集



令和4年11月

仙台市教育委員会

# はじめに

このリーフレットは、仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき平成 29 年度から実施している「学校図書館運営モデル校事業」の、令和 3 年度モデル校の取組をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので、各校における学校図書館運営の参考としていただき、子どもの読書環境の充実につなげていただきたいと思います。

また、仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）についても抜粋して紹介していますので、取組を進めるにあたって、本市の子ども読書に関する目標や考えを今一度ご確認いただければ幸いです。

## ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 目 次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

1	仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について	
	（1）計画の策定	1
	（2）計画の目的と基本の方針	1
	（3）成果指標	2
	（4）重点的な取組	2
2	仙台市学校図書館運営モデル校事業	
	（1）計画における位置づけ・事業概要	3
	（2）令和 3 年度モデル校の取組事例紹介	
	・東長町小学校	4
	・旭丘小学校	6
	・八本松小学校	8
	・幸町小学校	10
	・大沢小学校	12
	・西山小学校	14
	・栗生小学校	16
	・住吉台中学校	18
	・鶴谷特別支援学校	20
	（3）令和 3 年度モデル校事業の総括・今後	22

# 1 仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)について

## (1) 計画の策定

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、仙台市においても、平成16年から仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画、平成24年から第二次計画を策定して子どもの読書活動推進に取り組んできました。

現在は、平成29年1月に、第二次計画期間で見えた課題などを踏まえ新たに策定した「仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)」(以下「第三次計画」)に基づき、平成29年度から令和5年度までの7年間の計画期間のなかで様々な取組を推進しています。

## (2) 計画の目的と基本の方針

### 計画の目的

子どもが自ら読書に楽しみ、人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では、子どもが読書に親しむだけでなく、自ら進んで楽しく読書することを通して、様々な知識や経験や考え方に触れ、身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び、人生をより深くより豊かに生きることが出来る力を身に付けられるよう、多様な読書活動ができる環境づくりを目指しています。

また、この目的を達成するために次の4つの基本の方針を掲げています。

### 基本の方針

#### (1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ、大切さを知ることができるよう、家庭、地域、学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また、子どもの発達段階に応じた読書支援を行い、子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

#### (2) 子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び、本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに、子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組めます。

#### (3) 子どもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し、読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに、子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

#### (4) 家庭、地域、学校、図書館、ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し、連携を図りながら計画を推進します。

### (3) 成果指標

計画の推進状況把握のため、目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しています。

しかし、読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく、子どもたちの感性を磨き、表現力を高め、創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

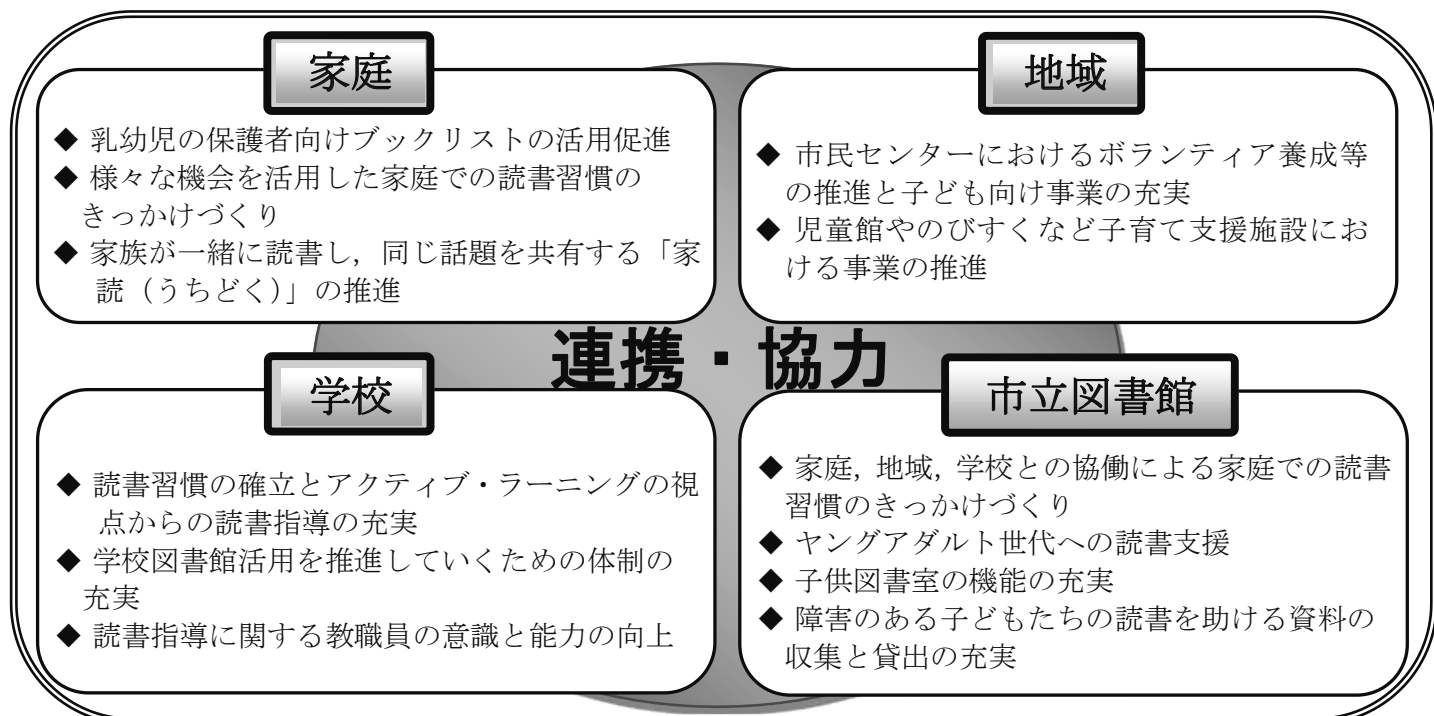
成果指標		第二次実績 (平成28年度)	第三次目標 (令和5年度)
家や図書館でふだん(月～金)1日に30分以上読書する児童・生徒の割合(教科書, 参考書, 漫画, 雑誌を除く。)	小6	39.3%	45.0%
	中3	30.8%	35.0%
昼休みや放課後, 学校が休みの日に, 学校図書館や地域の図書館へ月1回以上行く児童生徒の割合	小6	39.4%	45.0%
	中3	18.5%	25.0%
市立図書館児童書蔵書冊数 (15歳以下1人あたりの平均蔵書冊数)		5.2冊	5.5冊
市立図書館児童書貸出冊数 (15歳以下1人あたり年間平均貸出冊数)		9.0冊	10.5冊
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数 (1人あたりの年間平均貸出冊数)	小	39.8冊	37冊(※1)
	中	6.3冊	9冊
市立図書館おはなし会参加人数		12,249名	12,000名
1か月に1冊も本を読まない子どもの数(不読率)	小	—	3%(※2)
	中	—	12%(※2)

※1 計画期間中, 毎年度37冊を目標とする。

※2 平成28年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では, 仙台市の不読率は小学生5.9%, 中学生16.5%。国の第三次基本計画では, 計画5年目の平成29年度の指標として, 小学生3%以下, 中学生12%以下として設定している。

### (4) 重点的な取組

計画の目的を達成するために, 4つの基本的方針のもと, 家庭・地域・学校・図書館という4つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ, 計画の推進を図っています。



## 2 仙台市学校図書館運営モデル校事業

### (1) 計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では、学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており、その具体的取組の1つとして平成29年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では、学校図書館を利用する児童生徒を増やし、子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組推進を目的として、学校図書館運営に関し特色のある取組をする学校を学校図書館運営モデル校に認定し、図書購入費などの重点配分を行います。

令和3年度は、学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組を期待する学校などをモデル校に認定し、図書購入費及び備品購入費の重点配分を行いました。

#### <令和3年度モデル校>

学校種別	学校名	重点配分額 (図書購入費)	重点配分額 (備品購入費)
小学校 (7校)	東長町小学校	150千円/校	85千円/校
	旭丘小学校		
	八本松小学校		
	幸町小学校		
	大沢小学校		
	西山小学校		
	栗生小学校		
中学校 (1校)	住吉台中学校		
特別支援学校 (1校)	鶴谷特別支援学校		

### (2) 令和3年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において、読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと、重点配分予算を活用した図書購入や備品等購入による読書環境整備、それらを含め図書館運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

令和3年度も感染症対策の観点を踏まえて、各校工夫した学校図書館運営を行っていただきました。特に、移動書架による図書配置の工夫や、「家読」を意識した取組が多く見られ、各校図書館使用が難しい中でも子どもの本への興味関心を引き出していただきました。

読み聞かせをとおした読書推進の取組や、授業等での図書利用に資する備品購入等、読書啓発・環境整備のための工夫を実践いただきました。

# 東長町小学校

【児童数：783人】  
（R3.5.1現在）

## ◆ モデル校としての目標 ◆

児童が読書に親しむ環境を整えることで、読書の習慣を身に付け、児童の7割が年間貸出数50冊を上回るようにする。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 感染症対策のため、休み時間の図書室利用が各学年週1回になり、利用時間が減った。
- 一人一人の読書量の差が大きい。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 児童による選書会の実施【継】

- 本への関心興味を高めるために、児童による選書会を実施した。 【選書会の様子】

#### 2 図書委員会を中心とした図書祭りの実施【継】

- 図書室に足を運び、本に親しめるイベントを年に1回開催した。

#### 3 読書郵便の実施【継】

- お勧めの本をハガキに書き、友達に届けた。

#### 4 東小50冊【継】

- 6年間で読んでほしい本をコーナーとして設置し、児童が様々な分野の本に関心を持って読めるようにした。



#### 5 移動書架の設置【新】

- 各学年の廊下に移動書架を配置し、学習に活用できる本を気軽に手に取れる環境を整備した。

### 取組による効果

#### 1 児童による選書会の実施【継】

- 選書会では、様々な分野の本が展示されていたため、今まで読んだことのない分野の本にも関心を持ちながら選書していた。
- 選書された本は自分たちが選んだ本という意識が高いため、特に興味を持って読む姿が見られた。

#### 2 図書委員会を中心とした図書祭りの実施【継】

- 今年度は感染症対策のため、昼の放送や図書の時間を利用して実施した。昼の放送ではお勧めの本の紹介や、読み聞かせを行い、各学年の人気の本を紹介した。放送後に図書室でそれぞれの本を展示すると、多くの児童がそれらの本を手にとっていった。

#### 3 読書郵便の実施【継】

- 多くの児童が、友達から届いた読書郵便を喜んで読んでいた。勧められた本に関心を持ち、

借りる姿が見られた。また、図書事務員に本がある場所を尋ねる児童もいた。

#### 4 東小 50 冊【継】

- 6年間で読んでほしい本をコーナーとして設置することで、どの本を借りるか迷ったときにそこから本を選ぶ児童がいた。特に、低学年は選書に時間が掛かるので低学年の担任は、東小 50 冊の本を紹介することも多く見られた。

【移動書架の設置】

#### 5 移動書架の設置【新】

- 移動書架の本には、学習に関連した本も多く取り入れた。授業で学習した内容に関わる本に、関心を持つ児童が多く見られた。
- 国語科で並行読書をする際は、ブックトラックにそれらの本を置くことで、どのクラスの児童も、朝の読書タイムや休み時間を利用して気軽に手に取っていた。



### 目標の達成状況

- 令和3年度の全校児童のうち、図書室から 50 冊以上の本を借りた児童は 566 人と、72%となり、目標の7割を達成することができた。
- 朝の読書時間や図書の授業でも、静かに本を読んだり、読み聞かせを聞いたりするなど、読書に親しむ姿が見られた。

### 取組を振り返って

- コロナ禍であったため、休み時間に図書室に行ける機会を制限していたが、そうした中でも児童が本に親しめるよう工夫して読書活動の推進に取り組んできた。図書室の環境を整備するのはもちろんのこと、今回の取組を通して、児童による選書や読書郵便など、児童を主体とした活動を積極的に行うことが、より多くの本に興味を持つことになると感じた。特に読書郵便は友達から勧められた本に興味を持つ児童が多く、普段読まない分野の本にも自然に手を伸ばしていた。
- 今回初めて取り組んだ移動書架は、その学年の学習に関わる本を多く展示した。社会科や理科、英語の学習に関わる本などは、図書室にあっても手に取る児童が少なかったが、移動書架に置くことで多くの児童が手に取るようになった。そのため、物語以外の様々な分野の本を読むきっかけにもつながった。これまでは、図書室の環境整備を積極的に行ってきたが、今回の移動書架を通して、図書室以外にも、児童が本に親しめる環境を整えていくことの大切さを感じた。来年度以降もこの取組を継続していきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 児童による選書や読書郵便など、児童を主体とした活動を積極的に実施
- 図書室内外に、児童が本に親しめる環境を整備

# 旭丘小学校

【児童数：374人】  
（R3.5.1現在）

## ◆ 事業実施目標 ◆

- ・低，中，高学年ごとに目標として掲げた年間読書冊数を満たす児童の割合80%以上を目指す。  
（低30冊以上，中50冊以上，高30冊以上）
- ・家でマンガ以外の本を読んでいる児童の割合80%以上を目指す。

## 学校における読書や学校図書館の状況・課題

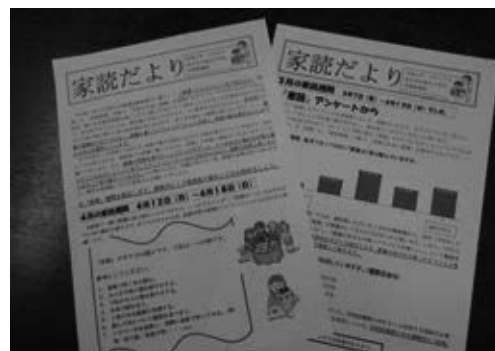
- 毎週月曜日と金曜日，朝の業前時間に20分間「読書タイム」を設定し，学級毎読書を行っている。
- 保護者アンケートによると，家でマンガ以外の本を読んでいる児童の割合が60%に止まっている。

## 取組内容 ※[新]=新規取組 [継]=継続取組

### 1 「家読」への取組【新】

- 学校教育の重点目標に読書活動の充実を掲げ，その取組の1つとして，「家読」（うちどく）を取り入れた。家読を「家族触れ合い読書」として，家族一緒に本を読む時間を過ごしたり，読んだ本について話をしたりすることを基本とし，家庭の協力を得ながら自由に取り組んでもらった。
- 毎月，7日から13日を「家読週間」とし，どのような取組をしたか報告を受け，その内容を「家読だより」として各家庭へ配付し，更なる読書活動の推進を図った。

【家読だより】



### 2 教職員による「おすすめの本」の紹介【新】

- 毎月行われる「お話朝会」時に校長が話をする際，「先生方のおすすめの本」を紹介する時間を設けた。1回の朝会時につき，3～4人の職員のおすすめ本を教員本人が作成した「おすすめポイント」が書かれたシートと共に紹介した。職員は，学校図書館にある本の中から自分が薦めたい本を選び，その面白さを紹介するようにした。

【先生方のおすすめの本の紹介】



### 3 移動書架の設置【新】

- 図書費で各学年の発達段階に応じた本を購入し，備品購入費で購入した移動式の書架に配架して，各学年の教室前廊下に設置した。

## 取組による効果

### 1 「家読」への取組【新】

- 「家読」について年度末に保護者アンケートをとった際「親子で本に親しむ時間ができた」，「いろいろな本にふれあう機会が増えた」，「図書室で借りてきた本を，きちんと読んでから返すようになった」，「読書習慣が付き，家読週間以外にも進んで本を読むようになった」等



の感想が寄せられた。

## 2 教職員による「おすすめの本」の紹介【新】

- 教職員が薦めた本に興味を示す児童が多く見られ、当該書籍の貸出率が増えた。
- 教職員を含め、年間を通して読書に親しむ土壌ができ、学校全体として読書活動の推進を促す大きな力となった。

## 3 移動書架の設置【新】

- 図書室に行かずとも、教室のすぐ近くに図書がある環境を整備することで、本を手にする児童が増え、休み時間など、より読書をする児童が増えた。

### 目標の達成状況

- 低、中、高学年ごとに目標として掲げた「年間読書冊数を満たす児童の割合80%以上を目指す」については、低学年89.9%、中学年49.2%、高学年80.8%となった。中学年は低かったが、低、高学年は目標を達成することができた。
- 家でマンガ以外の本を読んでいる児童の割合 80%以上を目指した。結果、児童の自己評価「よくできた」、「概ねできた」の割合が81%となり、目標を達成した。ただし、保護者目線では、同割合が65%という結果になっているため、来年度は保護者の捉えの「よくできた」、「概ねできた」の割合の向上を図りたい。

### 取組を振り返って

- 一人一台端末が推進されていく時代の中、デジタルの画像や映像に親しむ時間ばかりになるのではなく、児童一人一人が本を手に取り、心を落ち着け、その世界に没入する、そのような体験をこれからも意識的に与えていきたい。
- 今年度、家庭の協力もあり、「家読」の取組は功を奏したと感じている。また、教職員による、「おすすめの本の紹介」を年間通して継続したことも、児童が読書に親しむきっかけ作りになったと考える。来年度も、保護者や教職員の意識を更に高めながら、児童が本に親しむ取組を実践していきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 「家読」への取組は、家庭との連携を大切に！
- 毎月7日～13日を「家読週間」として固定。
- 「家読だより」で「家読」の取組へのポイントを紹介。家庭での取組を児童・保護者の感想とともに紹介。教職員の「おすすめ本」も紹介。
- 年度末にはアンケートを実施し、改善点を次年度に反映させる。

# 八本松小学校

【児童数：409人】

(R4.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

- ・進んで読書に親しむ児童を増やし、読書の質と量を向上させる。
- ・児童一人当たり年間読書冊数を50冊以上にする。

## 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読書の好きな児童と読書習慣のない児童との差が大きい。
- 高学年の図書館利用が少なく、年間読書冊数も少ない。

## 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

### 1 図書委員会、教師によるおすすめ本の紹介【継】

- 図書館だよりを発行し、おすすめ本を絵と文章で紹介した。

【図書委員会によるおすすめの本の紹介】



### 2 児童の読破カードの掲示【継】

- 10冊読むごとに、読破カードで読んだ本を紹介し、図書館だよりでも紹介した。

### 3 保護者のおすすめの本、思い出の本の紹介【新】

- 図書館だよりで保護者のおすすめ本を募集し、紹介した。

### 4 偉人の伝記用書架の設置【新】

- 社会の学習や調べ学習で学んだことをより深められるような環境を整えた。

【偉人の伝記用書架】



### 5 新刊図書の紹介コーナーの設置【継】

- 新刊図書に興味を持ち、手に取りやすいように展示を工夫した。

【新刊図書の紹介コーナー】



## 取組による効果

### 1 図書委員会、教師によるおすすめ本の紹介【継】

- 図書室や読書への関心が高まったり、次に読む本を選ぶ際に参考になったりする様子が見られた。

### 2 児童の読破カードの掲示【継】

- 読書の記録が目に見えて分かる形となり、読書意欲の向上につながった。

### 3 保護者のおすすめの本、思い出の本の紹介【新】

- 保護者にも本の紹介をしていただくことにより、読書の幅が広がったように感じた。

### 4 偉人の伝記用書架の設置【新】

- 同じテーマの本を揃えて置くことで、偉人について知るきっかけになったり、新たなジャンルの本を手にとったりするきっかけになった。

### 5 新刊図書の紹介コーナーの設置【継】

- 読書環境の改善により、図書室の活性化、利用促進が図られた。
- 図書室や読書への関心が高まり、読書量が増えた。

## 目標の達成状況

- 進んで読書に親しむ児童が増え、読書の質と量が向上した。
- 児童一人当たりの年間読書冊数が59冊になり、50冊以上にするという目標が達成された。

## 取組を振り返って

- 読書の好きな児童と読書習慣のない児童との差が大きく、図書室利用の頻度の差も大きかったが、図書アンケートで希望図書を募り、図書部で検討し購入したところ、図書室利用が多くなり、貸し出し数も増えた。

## ◆ 注目 POINT ◆

- 職員や保護者、図書委員の児童がそれぞれのおすすめの本を紹介することで、色々なジャンルの本に出会う機会が増えた。
- 毎年12月上旬に「図書館祭り」を1週間開催している。この期間、図書館ビンゴ、図書館クイズ等を企画しており、全校の児童が楽しみにしている。

# 幸町小学校

【児童数：273人】

(R3.5.1現在)

## ◆ 事業実施目標 ◆

読書習慣の形成のためには、児童に読書時間を意識させて、児童の6割が1日30分以上読書することを目指す。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 高学年の図書の貸出冊数が少ないこと。
- 下学年の読書時間が少ないこと。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 毎週金曜の朝読書の実施【継】

- 始業前の10分間を「読書タイム」として、全校で同一時間の読書に取り組んだ。学級担任に加え、校長、教頭、教務主任も各教室で読書に取り組み、読書習慣の形成を図った。

#### 2 外部講師の読み聞かせやブックトーク等の実施【継】

- 全学年でブックトーク、低学年でお話会やストーリーテリングを行った。読書の楽しさや面白さを実感させることをねらった。

【児童による選書の様子】

#### 3 児童による選書【新】

- 全校児童による選書会を実施し、選書会の結果を基に図書購入を行った。児童の希望を最優先と考え、今年度は希望した児童が一人でもいれば、その図書を購入し、図書館に足を運ぶきっかけとなるようにした。



#### 4 図書館のレイアウトの工夫【新】

- 図書事務が近隣中学校の図書館を見学し、その結果を参考に、選書会を基に購入した図書や、高学年の好みそうな図書を目立つ場所に配架した。購入した図書の書名を掲示し、貸出中の図書が分かり、予約もできるようにした。高学年児童にとっても魅力ある図書館作りをねらった。

#### 5 移動書架の設置【新】

- 備品購入費で購入した移動式書架に国語の授業等に関連する図書を配架し、各学年の廊下に配置した。興味を持った児童が図書を気軽に手に取ることができる環境を整えた。

### 取組による効果

#### 1 毎週金曜の朝読書の実施【継】

- 全ての児童が着席し、口を閉じて読書に集中していた。読書タイムの習慣を身に付け、落ち着いて一日の始まりを迎えることは、学習にとっても良い影響を与えた。
- 児童の読書に取り組む姿勢を褒めたり、「1日30分の読書」を呼び掛けたりする機会にもなった。

## 2 外部講師の読み聞かせやブックトーク等の実施【継】

- ブックトークや読み聞かせの最中は、どの児童も集中した様子で耳を傾けていた。外部講師の方は「反応があってうれしい。」「以前紹介した本のことを覚えていてくれた。」などと話していた。授業後は紹介された図書を手に取る児童が多く、図書館の貸出冊数には表れないものの、読書への興味を高めることにつながった。

## 3 児童による選書【新】

- 自分で選書した図書が購入されたことで、図書館に足を運ぶ児童が増加した。選書会の後に、できるだけ迅速に配架したことも読書意欲の向上につながった。

## 4 図書館のレイアウトの工夫【新】

- 多くの児童が図書館に足を運ぶきっかけとなったと考える。特に選書会を基に購入した図書の中には、高学年が好んで借りるものや予約の途切れないものも見受けられた。借りた図書の周囲に配架されている図書に興味も持った児童も多かった。

## 5 移動書架の設置【新】

- 国語の学習に関連するテーマで書かれた図書や、同じ作者の図書などを気軽に手に取ることができるので、読書に関する興味の幅を広げる児童が増加した。

### 目標の達成状況

- 12月に行った4件法のアンケートで「平日、1日30分以上読書をしますか」の質問に対し「毎日する」、「だいたい毎日する」と回答した児童の割合は、57.3%と目標の達成にはもう一歩だった。しかし、学年別に見ると1，2，3年生では目標の6割を超えた。
- 一人あたりの年間平均貸出冊数を見ると、1，2，3，6年生の貸出冊数が昨年度より増加した。「仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）」において目標とされるのは小学生で37冊である。6年生は36.5冊で僅かに届かなかったが、1年生から5年生までは目標を超えた。目標には僅かに届かなかったものの、課題とした下学年や高学年の読書傾向については改善されつつある。

### 取組を振り返って

- 本校では、学力向上のための方策の一環として一日30分の読書習慣の形成のための取組を行ってきた。国語等の学力への影響を確認するには至っていないが、児童の読書意欲は確実に高まっている。課題とした下学年の読書時間や高学年の貸出冊数の少なさは、改善しつつある。今後も読書活動の推進を継続し、様々な面への成果を検証していく。
- 教職員自身がモデルとなったことも、児童が前向きに読書に取り組むようになった要因の一つと考える。司書教諭が各教科等の授業への図書の活用について職員研修を行ったことでも、教職員の読書活動に対する意識は更に高まった。読書習慣を形成する取組を継続する一方で、探究的な学びが重視される昨今においては、調べ学習のための多読、テーマ読みなどの多様な読みのスタイルを体得させることが望まれることも忘れてはならない。今後は、授業づくりを進める中で、学習センター、情報センターとしての学校図書館の機能を活用することが、児童の学力向上、教職員の力量向上につながっていくと考える。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 外部講師による読み聞かせやブックトークでは、実施後に紹介された図書の貸出を利用した。
- 貸出の図書を児童が手に取りやすい場所に置いたことで、読書への興味を高めることにつながった。

# 大沢小学校

【児童数：262人】

(R3.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

自由読書の啓蒙を継続すると共に、授業での図書資料活用を進め、幅広いジャンルの本を読もうとする児童を育てる。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 令和2年度はコロナ禍でも、すき間時間を活用して読書活動に取り組んだ児童が多かった。貸出冊数も一人あたり72冊と、学校全体としては大変読書活動が盛んであった。
- 学級ごとの貸出状況に差があること、また、学習のための図書資料の利用はまだ少ないことが課題である。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 学年部ごとに学校図書館利用の目標を決めて、貸出を実施【継】

- 低学年：85冊，中学年：80冊，高学年：75冊  
高学年が好んで読む本は字数が多くページ数も多いため、学年に合わせた目標設定に見直しをした。

#### 2 「家読」の日を設定【新】

- 毎週水曜日の家庭学習は、全校一斉に「読書活動」とした。  
全校共通の学習カードにも水曜日に「家読の日」と記入したものを配付した。

#### 3 授業で活用できる本の購入【新】

- 毎年、各教科主任に授業で活用できる本を選書してもらっていたが、本校には社会科関係の本、国語の教科書で紹介されている本の蔵書が少ない状況にあった。特に社会科は時代に合わない蔵書が多く、早急な購入が必要であった。

【購入した本を授業で活用する様子】



#### 4 公共図書館との連携【継】

- 図書祭り期間中に、全学年において、市民図書館ブックトークボランティア「ランプ」を招き、ブックトークを実施した。  
ブックトークで紹介された本は、学校の団体貸出として各学級・学年に貸し出してもらった。
- 授業で活用したい調べ学習の本等は積極的に市民図書館の貸出を活用するよう、図書主任から学級担任に呼び掛けた。

#### 5 回転式の書架で新しい情報を発信する【新】

- 回転式の書架を初めて購入し、テーマ展示に役立てた。読書感想文や感想画の指定図書や季節に合った本、また新刊図書等を配本した。児童は回転式書架の周囲に集まるが多かった。

### 取組による効果

#### 1 学年部ごとに学校図書館利用の目標を決めて、貸出を実施【継】

- 通常の学級9学級中7学級で目標が達成されていた。また、特別支援学級2学級も目標が達成

されていた。4 学年（単学級）は一人あたり平均 100 冊以上の貸出があった。

## 2 「家読」の日を設定【新】

- 本校はバスで通学する児童が 1 割程度在籍しているため、朝読書の時間を設定することができない。その代わり水曜日の家庭学習を「読書」とした。コロナ感染症も収まっていた時期だったので、休み時間にも自由に本を貸し出しできるようにルールを改めたことで、貸出冊数も増え、読書冊数の増加につながった。

## 3 授業で活用できる本の購入【新】

- 先生方に「授業で活用したい本」を選んでもらった。本の業者の情報も大変参考になった。社会科学関係は情報が最新の内容の本をそろえることができた。

## 4 公共図書館との連携【継】

- 感染症対策を十分に実施した上でブックトークを実施した。紹介される本に、興味関心を持つ児童が多く、引き込まれるようにブックトークに聴き入っていた。授業で活用する本の団体貸出（市民図書館）も定着しつつあり、6 学年中 4 学年が活用していた。テーマに合わせて、市民図書館職員に選書まで実施していただけるので大変ありがたく、また授業の活性化につながる取組であった。

## 5 回転式の書架で新しい情報を発信する【新】

- 本校の学校図書館に回転式の書架は初めて設置された。図書事務員の協力で、新しい情報を発信する書架となった。配本の仕方を工夫することで、図書室に入ると、まず回転式の書架を目指す児童が増えた。学校図書館は楽しい場所というイメージを更に高めることができた。

### 目標の達成状況

- 目標として掲げていた「自由読書の啓蒙を継続すると共に、授業での図書資料活用を進め、幅広いジャンルの本を読もうとする児童を育てる」は、充分達成できた。
- 市民図書館からの団体貸出を活用しなかった学年もあったが、図書事務員の協力を得て、学校図書館の蔵書を授業で活用していた。
- 貸出冊数の目標も概ね達成した。

### 取組を振り返って

- この 2 年間、コロナ禍にあっても児童が夢を失ったり、学校生活に希望を持ってなくなったりしないように、全校をあげて読書活動に邁進してきた。心の豊かさは数値化できないが、職員が一丸となって取り組んできたことが、現在の大沢小の活気や明るさにつながっている。
- 自由読書からもっとジャンルを広げた読書活動や授業で図書資料を活用する取組も、児童の学習課題への興味関心を高めてきた。読書の効果は一朝一夕には表れないが、この取組を土台に、令和 4 年度の教育活動がますます児童の知的好奇心を高めていくことと思う。
- このモデル校事業指定を受けて、大沢小学校の児童一人一人が、読書のより楽しい世界に出会うことができた。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 学年別の貸出目標の設定、家読の日を設定したこと、学校図書館の蔵書の充実、図書資料の積極的な授業への活用など、様々な方法で児童が図書に触れる機会を増やしたことが、読書への興味関心の向上につながった。
- 児童に「すき間時間には読書をする」など、読書に対する意識の高まりが見られた。

# 西山小学校

【児童数：303人】  
(R3.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

児童が本を手に取りやすい環境を整備することにより、読書習慣の確立を図り、全校児童中年間5冊／月以上読書する児童の割合70%を目指す。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 家庭での読書時間が少ない。
- 学年が上がるにつれ、年間の読書冊数が低下する。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

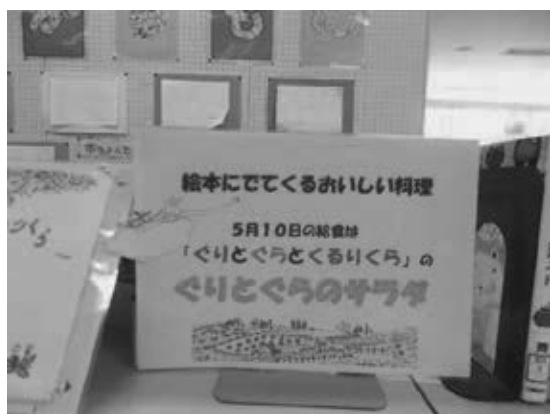
#### 1 「家庭読書週間」の設定【継】

- 家庭読書週間とノーメディアチャレンジデー（テレビ・ゲーム・パソコン・スマートフォンなどを使わずに生活してみる日）を組み合わせ、児童がより多くの本に親しめるようにした。図書費で、国語の教科書で紹介されている図書を購入した。さらに、読み聞かせボランティアや土曜図書室開放指導員による選書を行い、教室で読み聞かせをした本や地域の方からの要望のあった図書も購入した。

#### 2 絵本に出てくるおいしい料理の給食献立と、読み聞かせの実施【継】

- 絵本に出てくるおいしい料理を給食の献立に取り上げ、昼の校内放送で絵本の読み聞かせを行った。取り上げた絵本は図書室で展示・貸出した。備品購入費で、授業で使う図書を教室に運ぶためのファイルワゴン2台を購入した。

【絵本に出てくる料理を給食として提供】



【絵本の読み聞かせ】



### 取組による効果

#### 1 「家庭読書週間」の設定【継】

- 毎年家庭読書週間を継続して設定することにより、保護者に対して、親子でじっくりと本を読む時間の大切さについて啓発することができた。事後アンケートから、児童がいろいろな分野の本



を読んでいたことが分かった。学校の読み聞かせ等で紹介された本を手取ることで、興味・関心が広がった。

## 2 絵本に出てくるおいしい料理の給食献立と、読み聞かせの実施【継】

- 昼の校内テレビ放送で、おいしい料理が出てくる物語の絵本を読み聞かせをしたところ、直後の昼休みに図書室に来て読み聞かせした絵本を手取ったり話題にしたりする児童の姿が見られた。絵本に出てくるおいしい料理を実際に給食で食べながら話を聞くことで、登場人物の気持ちを具体的に想像することができたため、本の内容に興味を持つようになったものと考えられる。

### 【お昼の校内テレビ放送の様子】



### 目標の達成状況

- 令和3年度の全校児童中年間5冊／月以上読書する児童の割合は63.6%と、目標の70%には至らなかったが、前年度に比べ0.9%増となった。  
読書冊数があまり伸びなかったことについては、図書事務担当から前年度よりもページ数が多い物語を好んで借りる児童が増えたためではないかとの報告があった。また、調査期間はコロナ不安のため学校を休む児童が多く、回答ができなかったという要因も挙げられる。  
この結果を参考に令和4年度の取組も検討していきたい。

### 取組を振り返って

- 「いろいろな本を読もう」という協働型学校評価の重点目標を掲げている本校では、児童の読書に対する興味・関心を広げることと家庭での読書習慣作りが課題となっている。今年度の取組は、料理を切り口にして本を紹介し、その後すぐ手取ることができる環境を整えることで、これまで本に関心のなかった児童に物語の楽しさを味わわせるきっかけになった。さらに家庭でも親子で様々な本を読む時間を持つ児童が増えてきたことは、取組の波及効果ではないかと感じている。  
引き続き、学校で児童が興味を持って本を手取ることができるよう工夫を重ね、家庭での読書に結び付けることができるよう実践していきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 家庭読書週間の設定があることにより、家庭でじっくり本に向き合う時間が確保できた。
- 絵本に出てくるおいしい料理の給食献立と、読み聞かせを実施し、図書室で工夫した本の展示があることで児童の本に対する興味・関心が高まった。

# 栗生小学校

【児童数：600人】

（R3.5.1現在）

## ◆ モデル校としての目標 ◆

学校図書館の環境整備や家庭と連携した取組を行い、年間読書冊数を39冊以上読む児童を80%以上にする。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 1か月の平均読書冊数に増加が見られる。
- 学年によって冊数のばらつきがあるので、更に読書習慣の形成に努める必要がある。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 図書館の愛称募集とマスコットキャラクターの制作【新】 【制作したマスコットキャラクター】

- 児童に対し、図書館の新しいマスコットを作ることを知らせアイデアの募集をした。
- イラストを基に立体のマスコット制作を依頼し、入り口に置いた。
- マスコットが決定した段階で背景のアイデアも募集した。



#### 2 家庭と連携した家読の一層の推進【継】

- 12月から2月末までの期間を家読の期間と設定した。
- 読んだ中から、友達におすすめしたい本についてカードに書く活動を行った。

#### 3 図書委員会主催の図書祭りの取組【継】

- 本の表紙のイラストパズル、読書感想文コンクール、スタンプラリーの3大イベントを開催した。
- 塗り絵やくじなどの景品や賞状などを用意した。

【図書祭りの様子】



#### 4 長期休業中の貸し出し冊数を増やすこと【継】

- 夏期休業・冬季休業前は、一人5冊までの貸し出しを行った。

#### 5 新刊と修理の本の置き場所として書架の設置【新】

- カウンター奥に書架を購入して設置した。

### 取組による効果

#### 1 図書館の愛称募集とマスコットキャラクターの制作【新】

- 図書館の愛称、マスコットキャラクター、壁面デザインそれぞれについて、選定に迷うほどの作品が集まった。デザインを考える中で、学校の自慢できるところ（眼前に広がる蕃山や校内のピオトープ）を取り入れようとしている児童が多く、図書館をより親しみの持てる場所にしたいという児童の思いが伝わってきた。

## 2 家庭と連携した家読の一層の推進【継】

- 昨年は1か月半だった取組の期間を3か月に伸ばした。保護者からも、とても良い取組であるとの感想が多く寄せられた。

## 3 図書委員会主催の図書祭りの取組【継】

- 図書委員は自分の考えが取り上げられたことを喜び、意欲的に活動していた。たくさんの児童が期間中図書館を訪れ、にぎわっていた。
- 図書まつり期間は、2週間で貸出冊数が3,124冊と普段の3倍の利  
用があった。

### 【新刊図書用書架の設置】



## 4 長期休業中の貸し出し冊数を増やすこと【継】

- 貸し出し冊数が増えたことで、いつもは手に取らない本も借りようとしていた。冬季休業中は、家で過ごす時間が長いいため効果的だった。

## 5 新刊の一次置き場としての書架の設置【新】

- カウンターの奥に設置したことで、児童から目立つ位置に本が並ぶこととなり、貸出の処理が済んだら、借りたいという申し出が増え、借りるまでの高揚感を持たせることができた。

### 目標の達成状況

- 令和2年度の全校児童中年間39冊以上読書する児童の割合は、58%であった。割合を80%以上にするという目標は達成できなかった。ただし、児童の1か月あたりの平均読書冊数は3～4冊以上の児童は、487名おり、こちらの数字で考えると78%の達成となる。(58%は図書室のパソコンを通してのもの、78%は自宅や教室で読んでいる本を含めたものとなっている。)

### 取組を振り返って

- 学年による読書冊数のばらつきを少なくすることはできなかったが、貸出の少ない6年生の年間平均貸出冊数を13.9%伸ばすことができたことは大きな成果だった。全校児童の年間平均貸出冊数も、昨年度より10冊の増加となっており、児童が本に親しむ機会を増やすことができた。
- 一方、読書量は増えていても、図書館のパソコンを通した貸出冊数が伸びていない。児童は、買ってもらった本など自分の好みの本をよく読んでいるのではないだろうか。図書館の様々なジャンルの本を見て、興味を持ち、借りたいと思わせる工夫がまだ不足していると感じた。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 全校児童に親しみを持たれるマスコットの「くりっこ」。この「くりっこ」ちゃんに会いに図書室を訪れ、そのまま図書室を利用する児童数が増えている。
- せっかくの新刊が誰にも気付かれず埋もれてしまうのはもったいない。書店のように、目立つ場所に並べることで「借りたい!」と思える本を増やすことができた。

# 住吉台中学校

【生徒数：161人】  
（R3.5.1現在）

## ◆ モデル校としての目標 ◆

一人一人の読書量を増やすとともに、多様な分野の本に触れる機会を作る。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書室を利用する生徒が固定化していて、読書量の個人差が大きい。
- 小説以外の貸出が少なく、読書分野に偏りが見られる。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 テーマ別選書コーナーの設置【継】

- 多様なテーマに基づいて図書を選定し、コーナーを設置した。生徒の目をひくようにポップにも工夫を凝らした。
- 図書購入費によって、一つの分類に偏らずに多様な図書を購入した。  
＜テーマの例＞「部活動」「学習効果UP」「映画の原作」「災害に強くなる」「バレンタイン」「教科書掲載の本」「地球温暖化と異常気象」等

#### 2 読書手帳（Book Record）および多読賞の設定【継】

- 読んだ本のタイトルや著者名を記録し、自分の読書生活の充実に役立てさせた。20冊毎にしおりをプレゼントした。
- 図書委員会の活動として、学期毎に貸出冊数を集計し、20冊以上の生徒に「多読賞」を授与した。学期末に全校生徒の前で図書委員長による表彰も行った。

#### 3 図書紹介の充実【新】

- 図書館入り口や書架に図書の紹介を提示した。
- 図書館司書を目指す、宮城教育大学の方が中学生に薦める本の紹介を掲示した。

【大学生によるお薦めの本紹介】



#### 4 国語の授業との連携【新】

- 長期休業前に読書指導の授業を行い、3～5冊まとめて貸出を行った。
- 「こだま」（仙台市中学生作文集）掲載作品を読み、作文の題材や構成・表現を考える一助とした。

#### 5 図書室の雰囲気作り【継】

- 装飾や小物によって、居心地の良い雰囲気を作った。

### 取組による効果

#### 1 テーマ別選書コーナーの設置【継】

- 旬のテーマから社会的なテーマまで、生徒が興味・関心を持ちそうな多種多様なテーマを設け

たことによって、普段は読まない分野の本を手にする生徒の姿が見られた。

## 2 読書手帳 (Book Record) および多読賞の設定【継】

- 生徒にとって、読書に励む一つの目標とすることができた。

## 3 図書紹介の充実【新】

- 様々な図書の情報に触れ、借りる本を選ぶ際の参考にする生徒が増えた。

【図書紹介の様子】



## 4 国語の授業との連携【新】

- 部活動や学習に時間をとられ、図書室に足を運ぶ機会が少なくなっている生徒にとっては、ゆっくりと本に触れる時間を設けることで、意欲的に選書することができた。

## 5 図書室の雰囲気作り【継】

- 季節感のある装飾やかわいらしい小物によって、明るく和やかな空間を演出し、来館のきっかけを作った。

### 目標の達成状況

- 年間平均貸出冊数は昨年度と比べて一人 21 冊から 23 冊に微増しているが、月に一冊も本を読まない生徒が3割強に増加した。このことから、読書が習慣化している生徒の読書量は増えたが、全体としては目標達成に至らなかったと言える。
- 多種多様な分野の本にも注目させ、小説以外の本に対する興味・関心を高めることができた。

### 取組を振り返って

- 読書の意欲喚起に向けて、様々な取組を試みたが、読書に対する意識の個人差には対応しきれなかった。中学生になると部活動や受験勉強など様々なことに追われ、読書時間の確保は後回しになる。それを上回るほど必要感を感じたり、強い興味を感じたりさせる試みを講じなければならぬと痛感した。また、読書に集中できる朝読書の時間が通年で実施できるよう、時間設定の必要性を感じた。
- 魅力ある本の存在に気付くことができるよう、図書紹介の充実を図りたい。さらに、より積極的な方策として、ブックトークやビブリオバトルも取り入れていきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- テーマ別選書コーナーや図書紹介の充実によって、新たな本への興味が高まり、多種多様な分野の本を手にする機会を増やすことができた。
- 日常的に読書に取り組んでいる生徒については、読書意欲を更に高めることができた。読書習慣が確立していない生徒についても、図書室で過ごす時間を作ることができた。

# 鶴谷特別 支援学校

【児童生徒数：147人】

(R3.5.1現在)

## ◆ 事業実施目標 ◆

豊かな情操を育てるための読書習慣を身に付けさせることを目指し、  
利用しやすい図書館の運営と蔵書の充実を目指す。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 本校の児童生徒の実態として、音の鳴る絵本や分かりやすい挿絵の絵本、大型絵本を好む傾向がある。本校の児童生徒の読書傾向及び実態に合った図書を購入し、蔵書の充実を図る。
- 本校は図書事務員が不在であり、蔵書管理は教職員が手作業で行っている。図書の蔵書管理を効率良く行う為に、図書管理システムを活用した図書の管理・貸出返却業務・図書検索できる体制を構築する。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 購入希望図書アンケートの実施【継】

- 教員に児童・生徒用図書の購入希望調査アンケートを実施し、児童生徒に読ませたいと思う本の選定・購入の資料とした。

#### 2 図書選定と購入【継】

- 購入希望アンケートを元に、図書情報部員が選書し購入した。

#### 3 図書室の環境整備【継】

- 音の鳴る本を一つのコーナーにまとめ、書架の整理をした。

【音の鳴る本のコーナー】

#### 4 図書委員会の活動【新】

- 図書委員会が掲示物を作成した。

#### 5 「本の病院」の設置【継】

- 壊れた本を入れるポストとして定着した。

#### 6 図書管理システムへの登録【新】

- 図書情報部員が本のバーコード登録を行った。



### 取組による効果

#### 1 購入希望図書アンケートの実施【継】

#### 2 図書選定と購入【継】

- 図書購入については、最も図書室を利用する学部が小学部ということもあり、小学部教員の希望を多く集めることができた。

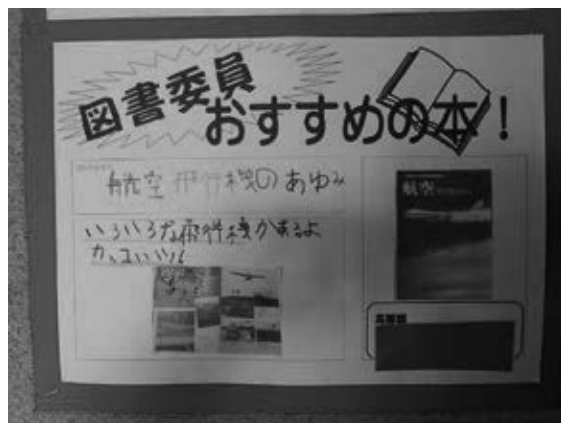
### 3 図書室の環境整備【継】

- 本校の児童・生徒の読書傾向から、音の鳴る本を好む児童・生徒が多く、書架が荒れがちだった。独立したコーナーを用意したことで書架がすっきりし、貸出もしやすくなった。

### 4 図書委員会の活動【新】

- 高等部生徒による図書委員会は、月に一回活動している。高等部生徒による「おすすめの本」が定期的に掲示されるようになり、図書室入り口の雰囲気明るくなった。

【おすすめの本の紹介】



### 5 「本の病院」の設置【継】

- 「本の病院」は壊れた本を入れるポストとして定着したので、今後も継続していきたい。

### 6 図書管理システムへの登録【新】

- 蔵書のバーコード登録と並行して、書架の整理を行うことができた。

## 目標の達成状況

- 今年度は、図書委員会が自分達の「おすすめの本」を紹介し、ポスターを掲示した。読書の推進を児童・生徒が主導となっていくことができた。
- 図書購入について、今年度は季節の行事に関する絵本や紙芝居を中心に購入し、蔵書の充実を図ることができた。

## 取組を振り返って

- 図書選定では、本校の児童・生徒の読書傾向を考慮した上で、授業の導入や理解を深めるために活用できる本を多く購入することができた。
- バーコード登録の作業は来年度も継続し、完了を目指す。「本の病院」は定着したが、人気のある本は破損を繰り返しやすいので、「本の病院」を利用せずに済む指導もしていきたい。

## ◆ 注目 POINT ◆

- 音の鳴る本を好む児童・生徒のために独立したコーナーを用意したことで、書架がすっきりし貸出もしやすくなった。
- 高等部生徒による「おすすめの本」が定期的に掲示されるようになり、図書室入り口の雰囲気が明るくなった。

### (3) 令和3年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において、その学校の状況に応じた子どもの読書や学校図書館活用に関する課題を見出し、解決に向けた取組を行っていただきました。

また、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、引き続き学校図書館の運営が難しい状況がありました。そのような状況の中で、各モデル校において感染症対策の観点も踏まえた取組内容をご検討いただき、備品を使った工夫や展示物を利活用した読書推進活動を実行していただきました。

小学校では、感染症対策に気を配りながら、児童による選書会や、外部講師による読み聞かせ等を実施していただきました。また、保護者や教員によるおすすめ本の紹介や、家庭読書週間等を設定していただくことで「家読」の取組にも力を入れていただき、子ども達の読書への興味関心を引き出すことが出来たようです。

移動書架については、備品費で整備していただいた小学校が多く、本がより身近になる環境を作っていただきました。学習で使用する本を移動書架で整備いただいた学校もあり、図書館の「学習・情報センター」としての役割を移動書架で補い、学校図書館の活性化を図っていただきました。

中学校では、現状の状況や課題から、テーマ別選書コーナーの設置や、読書手帳・多読賞の設定等本への興味関心を促す取組を実施していただきました。重点配分した図書費で多様な図書を購入いただき、生徒の目を引く展示方法についても工夫していただきました。今後も魅力ある本について紹介いただき、忙しい中でも少しでも本の世界に触れる環境づくりを実施いただきたいと思います。

特別支援学校では、児童生徒に合わせて図書の充実を図り、新たに図書管理システム登録を行う事で書架の整理を実施していただきました。4年目の取組ということで、これまでの取組を活かし発展させて、児童生徒が特に「音の鳴る本を好む傾向」から独立したコーナーを設置するなど書架配置内容にも工夫いただきました。「本の病院」の取組では、引き続き読書を通じて「物を大切にすること」を学び、思いやりの心を育て、想像力を育むという、読書の可能性を広げる取組を行っていただきました。

どのモデル校も、子どもの読書活動を支える環境を整えるべく工夫を凝らした取組を実施してくださいました。各モデル校には、今回の事業の実績を踏まえて、次年度以降も引き続き取組を推進していただければと存じます。また、令和3年度の実施内容や、実施した結果、新たに明らかになった課題などを他校にも積極的に共有していただくことで、本市における学校図書館の更なる効果的活用や子どもの読書活動推進に努めていただきたいと思います。

結びに、真摯に活動に取り組まれた令和3年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務の方、並びに事業実施へのご支援・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。





令和3年度

**仙台市学校図書館運営モデル校  
取組事例集**

令和4年11月発行

仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号

TEL : 022-214-8886 FAX : 022-268-4822

Email : kyo019310@city.sendai.jp